



第 75 回 (2013. 7 月号)

Mr Botibol 「ボティボル氏」 Roald Dahl

早川文庫『王女マメーリア』所載 田口俊樹訳

by 柴田耕太郎

文法力をつけたいが、無味乾燥な文法書など読みたくない。

そんな読者のために、人気小説の翻訳書に見る誤訳・悪訳をとりあげ、文法面から解説してゆく。題材は最近映画化された『チョコレート工場』の原作者で、日本がロケ地になった映画『007 は二度死ぬ』の脚本家でもあるロアルド・ダール(Roald Dahl)の短編から任意に選ぶ。いずれも原文で 10 ページ程の短いものが中心だから、読者も自分で訳してみて、この解説を参考に市販訳との優劣を競ってみてはいかがだろうか。

冒頭に誤りの種別と誤訳度を示したうえ、原文と邦訳、誤訳箇所を掲げます。どう間違っているのか見当をつけてから、解説を読んでください。パズルを解く気分で、楽しみながら英文法を学びましょう。

誤訳度：*** 致命的誤訳(原文を台無しにする)
 :** 欠陥的誤訳(原文の理解を損なう)
 :* 愛嬌的誤訳(誤差で許される範囲)

【ストーリー】

ボティボル氏は、金はあるが冴えない中年男。あるときふと思立って、レコードに合わせ指揮の真似事してみた。これに気分を高揚され、自邸の一室をミニ・コンサート会場に衣替えする。次の演目を選びにレコード店に出向いたところ、偶々音楽の趣味を同じくする女性と言葉を交わした。思い切って彼女を自宅へ招待し、自分の指揮、彼女のピアノ演奏による架空の(実はレコード演奏)コンサートを開く。

（原文 p667）* * イディオム

Clements had seen him coming, and now, as he watched Mr Botibol threading his way cautiously between the tables and the people, walking on his toes in such a meek and self-effacing manner and clutching his hat before him with both hands, he thought how wretched it must be for any man to look as conspicuous and as odd as this Botibol.

（訳文 p47）

そして今、帽子をしっかりと両手で握りしめ、人とテーブルのあいだを用心深く縫いながら、いかにも遠慮深そうに爪先立ってやってくるボティボル氏を眺めて、あの男ほど人の眼につき、また人から奇妙に見られるというのは、なんとも哀れなことだ、と思わずにはいられなかった。

【コメント】

on one's toes は「気を張り詰めて」。「爪先立つ」は stand on tiptoe(s) cf. walk on tiptoe (忍び足で、爪先で歩く)。

（修正訳）⇒**張り詰めた様子で**

（原文 p667）* 日本語表現

This was merely an exploratory, much-too-low bid, a kind of signal to the seller that the buyers were seriously interested.

（訳文 p48）

売り手の反応を買い手として見ようとしたまでにすぎなかった。

【コメント】

日本語がおかしいの。

（修正訳）⇒**まず見ようとした**だけだった

（原文 p668）* 名詞

Clements then spoke briefly about the drawing up and signing of documents, and when all that had been arranged, he called for two more cocktails.

（訳文 p49）

そこでクレメンツは口早に契約書について説明し、その書類に簡単にサインさせてしまった。そしてすべてが整うと、さらに二杯カクテルを注文した。

[コメント]

直訳すれば「それからクレメンツは書類の作成と署名について簡単に話し、すべて段取りがつくと、彼はカクテルをさらに二杯注文した」。

draw up a contract 「契約書を作成する」 arrange は「手はずを整えること、段取りすること」で、サインをしてしまったわけではない。相手が申し出に応じてくれたので、契約の前祝いに一杯奢り、さらに一杯勧めながら、買収手続きを説明している箇所だと思う。

(修正訳)⇒**ざっと契約書類の内容と署名についての説明をした。**

(原文 p668) * 日本語表現

When the wine came along Clements tried to have a talk about that.

(訳文 p49)

「それはそれは」ワインが届き、クレメンツはワインについて話をしてみようと試みた。

[コメント]

「みよう」と「試みる」は同じ意味が重なっている。

(修正訳)⇒**話をしようとした**

(原文 p671) * 日本語表現

That solicitor gave me too much wine, he told himself.

(訳文 p55)

あの弁護士に飲まされすぎた、と彼は自分につぶやいた。

[コメント]

「つぶやく」のは、自分に決まっている。

(修正訳)⇒**自分に言い聞かせた**

(原文 p672) * 日本語表現

He reached for the paper and pretended to read it, but soon he was searching furtively among the radio programmes for the evening. He put his finger under a line which said '8.30 symphony Concert. Brahms Symphony No. 2'.

(訳文 p57)

彼は新聞に手を伸ばしてそれに眼を通すふりをした。けれどもすぐ、その夜のラジオ欄をこそこそ盗み見ていた。 “八時三十分—シンフォニー・コンサート、ブラームス、交響曲

第二番”と書かれたところを指で押さえていた。

[コメント]

盗み見た」わけではない。この search は自動詞「探す」SVM(M=among ...)の形。furtively は「こそこそ」の意味があてはまることもあるが、「何か後ろめたさをもってすること」。この場合であれば、誰もいない観客に対して指揮者の真似を、ラジオでの演奏を元に自分でやろうとしていることに、後ろめたさを感じているのだ。

(修正訳)⇒ラジオ欄にそわそわと目を移した。

(原文 p674) * 日本語表現

But the thunderous applause and the cheering which came at the end of the symphony was the most splendid thing of all.

(訳文 p60)

しかしなんといっても終結部の万雷の拍手が一番喚起的だった。

[コメント]

何を喚起させるのかが分からない。

(修正訳)⇒圧巻だった

(原文 p678) * 日本語表現

Mr Botibol turned and saw standing beside him at the counter a squat, short-legged girl with a face as plain as a pudding.

(訳文 p67)

ボティボル氏が振り向くと、彼の横のカウンターのまえにプディングみたいに平凡な丸顔の、ずんぐりした、脚の短い女が立っていた。

[コメント]

間違いではないが、「平凡な」がいわば立ってしまう感じ。

(修正訳)⇒地味な

（原文 p682）* * 比較級

That's better, she thought. That's much better. Now I know it's all right.

（訳文 p75）

だいぶよくなったわ、と彼女は心の中で思った。さっきよりずっとよくなった。まともになった。

【コメント】

一緒に演奏してくれと強く迫るのでいささか引き加減になっていたところ、自分の配慮のなさをポティボルが詫びたので、彼女が感じた心の声。すこしずれている。

細かく言えば、**that** は直前のこと（ここでは、彼が少しまともになったこと）、**it** は文中で問題になっていること（ここでは、自分が申し出を受けるかどうか）。

（修正訳）⇒この様子ならいいかも、と彼女は思った。うんずっといい。いいわやりましょ。